

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	11
1. 理念の共有		2
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		6
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		11
1. その人らしい暮らしの支援		9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		30

事業所番号	4691100012
法人名	有限会社 グループホームさつま坊津
事業所名	グループホームさつま坊津
訪問調査日	平成22年2月23日
評価確定日	平成22年3月23日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4691100012
法人名	有限会社 グループホームさつま坊津
事業所名	グループホームさつま坊津
所在地	南さつま市坊津町坊2417番地5 (電 話) 0993-67-2612
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成22年2月23日

## 【情報提供票より】(平成22年2月1日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成18年4月15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 16人, 非常勤 3人, 常勤換算	15.9人

## (2)建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1階建ての	1階～	1階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円	
敷 金	有( 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

## (4)利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	1 名	要介護2	6 名		
要介護3	8 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	71 歳	最高	95 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	南さつま市立坊津病院 溝口クリニック 草野歯科
---------	-------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

東シナ海を一望できる田園地帯に建てられたホームであり、目の前の畑では利用者と職員と一緒に野菜を育て、四季を感じながら暮らしている。ホームの開設準備の際に地区の公民館を使わせていただいたため、当初より人々との交流があり、地域に溶け込み、役立ち、愛され信頼されるホームを目指すという基本姿勢を大切にしながら、日々取り組んでいる。関連施設として、小規模多機能ホームの開設が近々予定されており、利用者の交流をはじめ、職員研修の一層の充実により、さらなるサービスの質向上が期待される。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	災害対策において備蓄の件が課題となったが、早速改善に取り組み、緊急時対応用としての食料品および飲料水を準備し、貯水用のポリタンクや大容量のバケツも備えている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については、管理者が全体的な評価を行い、その後職員会議でユニット毎の確認と検討を行っている。前回の改善課題については、職員会議で対策を話し合い改善に向けて取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、2ヶ月に1回定期的に開催している。行事や利用者の状況について報告したり、介護や地域の情報、今後の予定など、さまざまな議題について活発な意見交換がなされている。内容についてはユニット会議等で職員に周知し、運営に反映している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱を設置しているほか、行事終了後、ご家族に残っていただいて意見交換会などを行っている。職員は、日常的にご家族とのコミュニケーションを積極的に図っており、何でも遠慮無く言える関係づくりに努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	小学校の入学式や卒業式をはじめ、地域の運動会や催事などに参加することで、積極的に地域住民との交流に取り組んでいる。公民館長をはじめ地域住民の方々が気軽に立ち寄り、近所で声をかけてくださったりと、地域の中でホームの存在がよく知られるようになっている。

## 2. 評価結果詳細

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初の理念に、地域の中のホームということを意識した一文を追加している。特に、利用者個人を尊重した生活を目指すことを念頭において取り組んでいる。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を掲示すると共に朝の引き継ぎ時に唱和を行い、自分たちのやらなければならないこと、目指すことを日々確認している。また、職員会議においても自らのケアの振り返りを行い、職員全員で意識の統一を図っている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校の入学式や卒業式をはじめ、地域の運動会や催事などに参加することで、積極的に地域住民との交流に取り組んでいる。公民館長をはじめ地域住民の方々が気軽に立ち寄り、近所で声をかけてくださったりと、地域の中でホームの存在がよく知られるようになっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、管理者が全体的な評価を行い、その後職員会議でユニット毎の確認と検討を行っている。前回の改善課題については、職員会議で対策を話し合い改善に向けて取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回定期的で開催している。行事や利用者の状況について報告したり、介護や地域の情報、今後の予定など、さまざまな議題について活発な意見交換がなされている。内容についてはユニット会議等で職員に周知し、運営に反映している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの職員や市の担当者と、情報交換やホームの状況報告、相談などを頻繁に行っており、緊密な連携が保たれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年4回広報誌を発行しており、行事の報告や職員の紹介、研修報告やお知らせなどを掲載してご家族に配布している。日常の報告は面会の都度行っており、健康状態に変化がある場合は、その都度電話で連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているほか、行事終了後、ご家族に残っていただいて意見交換会などを行っている。職員は、日常的にご家族とのコミュニケーションを積極的に図っており、何でも遠慮無く言える関係づくりに努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、働きやすい職場環境づくりに気を配っており、職員の定着率は高い。「スタッフが笑わないと、利用者は安心できない」と、笑顔を絶やすことが無いように楽しく仕事することを心掛けている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任者、既従事者用の研修プログラムがあり、職員は段階に応じた教育を受けている。外部研修への参加も、希望者を募り積極的に参加している。受講後は、ユニット会議にて報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流は盛んであり、相互訪問も実施している。昨年、管理者が薩摩半島地区高齢者認知症グループホーム連絡協議会の役員をしていたということもあり、他のホームとの交流機会が増えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者の見学は随時受入れており、ホームからの事前訪問も頻回に行うことで、入居前より馴染みの関係づくりがなされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の準備や野菜の育て方などについて、利用者から指導を受けながら実施する場面も見られる。ホームでは、ただ生きるということではなく、楽しく活力のある生き方をさせていただきたいという思いを持って、利用者との関わりを持つように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に利用者からの要望は多く聞かれており、その時々状況に合わせた対応を行っている。把握が困難な方に対しては、「言っても駄目だ」と思われないような接し方を心掛けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者およびご家族の意向を聞き介護計画を立案し、再度確認まで行っている。必要に応じて担当者会議を実施して、関係者の意見を取り入れるように努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを実施し、3ヶ月毎に現状把握と計画の見直しを行っている。状態変化がある場合はその都度見直し、現状に即した新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	遠方のご家族の宿泊受入れ、病院受診の同行や歯科の往診依頼、買い物への同行や訪問理美容の受入れ、ご家族の送迎などを希望に応じて実施している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が遠方の場合、説明して納得された場合は協力病院へ変更していただいている。無理強いはないため、かかりつけ医が遠方にある利用者も居られる。受診時の情報交換はその都度行い、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまで看取りのケースはないが、ホームとして重度化や終末期における指針を定め、入居時に説明を行っている。重度化してもできるだけ長くホームで暮らしていただけるように、本人およびご家族、かかりつけ医と相談し、看護師を中心に対応を検討している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者の誇りを傷つけることが無いように、常に心掛けている。言葉かけや虐待等について会議で指導しており、個人情報保護やプライバシーに関する勉強会も実施している。記録物は、鍵のついた棚に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の基本的な時間の設定はあるが、利用者の体調や気分によっては、予定の時間をずらしたり、苦手な食べ物は形を変えて食べやすく工夫するなど、一人ひとりに合わせた対応を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、その日の担当者が利用者の意見を聞いて決定しており、菜園で採れた野菜を使い季節感のある料理となっている。一人ひとりの力や好みに応じて、食事の準備や後片付けを職員と一緒にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、月・火・木・金に実施しているが、その曜日以外にも希望があれば、その都度シャワー浴にて対応している。入浴拒否のある方は、日を変えたり声かけの仕方を変えるなどして、週1回でも入浴できるように促している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	菜園づくりや料理の盛りつけ、洗濯物たたみなどを、一人ひとりの生活歴や力に応じて手伝っていただいている。歌や踊り、書道や生け花などの気晴らしの活動も行い、張り合いや喜びのある暮らしを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺の散歩や買い物に出かけているほか、ベランダでの日光浴も楽しんでいただいている。ドライブや花見、初詣や食事会などにも出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関には鍵を掛けていない。ユニットが横に一直線に並んでおり、隣のユニットの廊下まで見通すことができるため、職員や利用者の動きが確認できる。外出傾向にある方に対しては、その時の状態に合わせて、安全確認を行いながらさりげなく寄り添って見守るようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、夜間想定も含めた避難訓練を実施している。地元消防団や住民の協力も得ており、連絡体制も整っている。非常食の準備や備品の確認も、定期的にも実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量および水分摂取量は、チェック表に記録して確認しており、職員間で情報共有ができています。献立については、メニューに応じたカロリーの一覧表を掲示して参照しているが、専門家による内容確認、栄養指導までは受けていない。	○	現在、栄養士の指導を受けられるように働きかけているところであり、専門的な視点での指導・助言により、さらに栄養バランスに配慮した質の高い食事が提供されることを期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やフロアには、季節の生け花や絵画、行事の写真や利用者の作品などが飾られている。ソファのコーナーや和室もあり、それぞれにくつろいで過ごすことができる。廊下やトイレ、浴室には手摺りが設置され、転倒予防にも配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好みに応じて、馴染みの小物やタンス、時計や電化製品などが持ち込まれ、ご家族の写真なども飾られている。状態によっては家具の配置を変えるなどして、本人が居心地良く暮らせるように工夫している。		